様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	椋山女学園大学
設置者名	学校法人椋山女学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

<2024年度以降入学生>

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学共通科目	学部等共通科目	専門科目	合計		
生活科学部	管理栄養学科			0	24	30	13	
	生活環境デザイン学科			0	55	61	13	
外国語学部	英語英米学科			14	0	20	13	
	国際教養学科			14	0	20	13	
人間関係学部	人間共生学科			2	18	26	13	
	心理学科		6	2	8	16	13	
情報社会学部	情報デザイン学科			4	8	18	13	
	現代社会学科			4	4	14	13	
現代マネジメント学部	現代マネジメント学科				10	16	13	
教育学部	子ども発達学科				35	41	13	
看護学部	看護学科				124	130	13	
<p>(備考)</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和6年度から、国際コミュニケーション学部国際言語コミュニケーション学科及び表現文化学科を外国語学部英語英米学科及び国際教養学科に改組。 令和6年度から、人間関係学部人間関係学科を、同学部人間共生学科に改組。 令和6年度から、文化情報学部文化情報学科及びメディア情報学科を、情報社会学部情報デザイン学科及び現代社会学科に改組。 								

<2023 年度以前入学生>

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学 共通 科目	学部 等 共通 科目	専門 科目	合計		
生活科学部	管理栄養学科		6	0	24	30	13	
	生活環境デザイン学科			0	55	61	13	
国際コミュニケーション学部	国際言語コミュニケーション学科			8	18	32	13	
	表現文化学科			8	8	22	13	
人間関係学部	人間関係学科			2	52	60	13	
	心理学科			2	8	16	13	
文化情報学部	文化情報学科			4	57	67	13	
	メディア情報学科			4	56	66	13	
現代マネジメント学部	現代マネジメント学科				10	16	13	
教育学部	子ども発達学科				35	41	13	
看護学部	看護学科				124	130	13	
<p>(備考)</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和6年度から、国際コミュニケーション学部国際言語コミュニケーション学科及び表現文化学科を外国語学部英語英米学科及び国際教養学科に改組。 令和6年度から、人間関係学部人間関係学科を、同学部人間共生学科に改組。 令和6年度から、文化情報学部文化情報学科及びメディア情報学科を、情報社会学部情報デザイン学科及び現代社会学科に改組。 								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

<p>ホームページによる公開</p> <p>https://www.sugiyama-u.ac.jp/univ/about/disclosure/index.html</p> <p>※『実務経験のある教員による授業科目』にチェックを入れて検索することで対象科目を抽出することもできる。</p> <p>https://gear.sugiyama-u.ac.jp/SyllabusDisp/SyllabusDispCondMain.aspx</p>

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	椋山女学園大学
設置者名	学校法人椋山女学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

<https://www.sugiyama-u.ac.jp/gakuen/about/organ/list/>

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	(前職) 椋山女学園同窓会副会長	令和5年4月24日～ 令和9年4月22日	組織運営に対する チェック機能及び 同窓会との連携
非常勤	(現職) 学校法人名古屋鍼灸学 校理事長	令和5年4月20日～ 令和9年4月19日	組織運営に対する チェック機能
非常勤	(現職) 日本女子大学教授	令和5年4月20日～ 令和9年4月19日	組織運営に対する チェック機能
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	椋山女学園大学
設置者名	学校法人椋山女学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> シラバスにおいて、基礎的な情報(授業科目名、担当教員、授業科目区分(教養教育科目、専門教育科目等)、単位数、授業区分(講義、演習等)、開講学科、学年、開講期、曜日時限)に加え、授業テーマ、授業の到達目標、授業内容、授業計画、授業の進め方、課題(試験やレポート等)に対するフィードバック、アクティブ・ラーニング、評価方法と成績基準、授業時間外学修(事前・事後学修等)、担当教員メッセージ(受講学生に望むこと)、履修上の注意、キーワード、教科書、参考書等を明記している。 シラバスの作成過程としては次のとおりである。 <ul style="list-style-type: none"> 1 2月上旬 教員にシラバス作成依頼 → 1月上旬締切 1月中旬 シラバスの第三者チェック 2月上旬 教員にシラバス校正依頼 → 2月中旬締切 3月下旬 シラバスweb公開 シラバスは、ホームページ及び大学ポータルサイト S*map で公表 	
授業計画書の公表方法	<p>ホームページ(シラバス、履修の手引(シラバスの活用))</p> <p>https://www.sugiyama-u.ac.jp/univ/campus/study/course.html</p>
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	
<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> 「椋山女学園大学学則」第22条第1項において、「授業科目の単位修得の認定は、試験の成績に平素の学修状況を加味して行う」旨規定し、同条第2項から第4項までにおいて、試験の時期・実施方法、成績評価の概略について定めている。また、同学則第20条の2から第20条の5までにおいて、教育上有益と認めるときは、学生が他の大学又は短期大学において履修した授業科目について修得した単位等を本学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる旨規定している。 「椋山女学園大学試験及び成績評価に関する規準」において、試験の実施、単位認定・成績評価について定めている。 各授業科目のシラバスにおいて、評価方法及び成績基準を明記しており、各授業担当教員は、あらかじめ設定した成績評価の方法・基準により、厳格かつ適正に単位認定をしている。 	
<p>3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p>	

<p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「椙山女学園大学学則」第22条の規定に基づき、「椙山女学園大学試験及び成績評価に関する規準」第15条（別表第3）により単位認定を行っている。 ・「椙山女学園大学試験及び成績評価に関する規準」第17～19条の規定に基づきGPA制度を導入し、算定基準、対象外科目等を定めている。 	
<p><GPA算出方法></p> <p>各科目の成績評価をグレード・ポイント（Grade Point）に換算し、次の計算式により計算した値の小数点以下第2位を四捨五入し、グレード・ポイント・アベレージ（Grade Point Average）を算出する。</p> $\frac{(4.0 \times S \text{の修得単位数}) + (3.0 \times A \text{の修得単位数}) + (2.0 \times B \text{の修得単位数}) + (1.0 \times C \text{の修得単位数})}{\text{総履修登録単位数}} = \text{GPA}$	
<ul style="list-style-type: none"> ・成績評価及びGPA制度（上記算出方法を含む。）については、履修の手引において明示し、ホームページでも公表しており、適切に成績評価を実施している。（履修の手引は、1年次に新生オリエンテーションで冊子体を配付している。） ・成績の分布状況については、学科ごとに把握している。 	
客観的な指標の算出方法の公表方法	<p>ホームページ（履修の手引（単位、試験））</p> <p>https://www.sugiyama-u.ac.jp/univ/campus/study/course.html</p>
<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p>	
<p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「椙山女学園大学学則」第26条において、卒業認定について規定している。 ・大学及び各学部学科において、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を定めている。 	
<p><大学全体のディプロマ・ポリシー></p> <p>椙山女学園大学は、本学園の教育理念「人間になろう」の下、専門の学術を教授研究し、高い知性と豊かな情操を兼ね備えた人材育成を目指します。</p> <p>こうした人材を育成するため、本学では学部学科ごとにディプロマ・ポリシーを定め、所定の教育課程を修め、以下の知識、能力を持つ人材として認められた学生に対し、学士の学位を授与します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 専門分野における知識と技能を備え、科学的・学問的な視点から事象を捉えることができる。 2. 「人を大切にし、人と支えあい、自らががんばれる」社会人として必要な教養と知性を身に付けている。 3. 大学で学んだ知識や技能に基づき、答えのない課題や目標に対して創造的に考え、多様な人々と取り組むことができる。 <p>※各学部学科のディプロマ・ポリシーは、(3) 学校教育法施行規則第172条の2第1項に掲げる情報の概要 において記載。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・卒業要件（修得単位数等）及びディプロマ・ポリシーについては、履修の手引に明示し、ホームページでも公表しており、適切に卒業認定を実施している。（履修の手引は、1年次に新生オリエンテーションで冊子体を配付している。） 	
卒業の認定に関する方針の公表方法	<p>ホームページ（3つのポリシー、履修の手引）</p> <p>https://www.sugiyama-u.ac.jp/univ/about/policy/index.html</p> <p>https://www.sugiyama-u.ac.jp/univ/campus/study/course.html</p>

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	椋山女学園大学
設置者名	学校法人椋山女学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	http://www.sugiyama-u.ac.jp/gakuen/about/data/financial/
収支計算書又は損益計算書	http://www.sugiyama-u.ac.jp/gakuen/about/data/financial/
財産目録	(総括表) http://www.sugiyama-u.ac.jp/gakuen/about/data/financial/ (全財産目録) 各キャンパスに備え付け、希望者には公開している。
事業報告書	http://www.sugiyama-u.ac.jp/gakuen/about/data/report/
監事による監査報告(書)	http://www.sugiyama-u.ac.jp/gakuen/about/data/financial/

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:事業計画書)	対象年度:2024年度)
公表方法: https://www.sugiyama-u.ac.jp/univ/about/info/report/	
中長期計画(名称:椋山女学園大学中長期計画)	対象年度:2020年度~2029年度)
公表方法: https://www.sugiyama-u.ac.jp/univ/about/mlplane/	

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: https://www.sugiyama-u.ac.jp/univ/about/valuation/self/

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法: https://www.sugiyama-u.ac.jp/univ/about/valuation/certific/

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業又は修了の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 大学全体
教育研究上の目的 (公表方法： https://www.sugiyama-u.ac.jp/univ/about/feature/policy/) (概要) < 椋山女学園大学学則より > 第 1 条 本学は、教育基本法（平成 18 年法律第 120 号）及び学校教育法（昭和 22 年法律第 26 号）に基づき、本学園の教育理念「人間になろう」にのっとり、深く専門の学術を教授研究し、もって高い知性と豊かな情操を兼ね備えた人間を育成することを目的とする。 2 本学の学部及び学科の人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的については、別に定める。
卒業又は修了の認定に関する方針 (公表方法： https://www.sugiyama-u.ac.jp/univ/about/policy/) (概要) 椋山女学園大学は、本学の教育理念「人間になろう」の下、専門の学術を教授研究し、高い知性と豊かな情操を兼ね備えた人材育成を目指します。 こうした人材を育成するため、本学では学部学科ごとにディプロマ・ポリシーを定め、所定の教育課程を修め、以下の知識、能力を持つ人材として認められた学生に対し、学士の学位を授与します。 1. 専門分野における知識と技能を備え、科学的・学問的な視点から事象を捉えることができる。 2. 「人を大切にし、人と支えあい、自らががんばれる」社会人として必要な教養と知性を身に付けている。 3. 大学で学んだ知識や技能に基づき、答えのない課題や目標に対して創造的に考え、多様な人々と取り組むことができる。
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法： https://www.sugiyama-u.ac.jp/univ/about/policy/) (概要) 椋山女学園大学の学士課程では、ディプロマ・ポリシーに基づき、次のような教育課程を編成し、実施します。 1. 本学の授業科目は、全学共通科目、教養教育科目、学部共通科目、専門教育科目、各種課程及び資格取得に関する科目等で編成します。 2. 全学共通科目及び教養教育科目は、総合大学としての強みを活かし、学部学科を超え、多様な学生が相互に学び合います。 3. 初年次教育として、「人間論」を通じて本学の教育理念「人間になろう」を学び、自主性・主体性の基礎を育みます。また、「ファーストイヤーゼミ」では大学での学修を進める上での基礎的スキルを学びます。 4. 教養教育科目は、7つの領域で構成し、生涯にわたっての知的基盤となる幅広いものの見方や考え方を身に付けます。 5. 専門教育は学部ごとに行い、専門分野における知識と技能を習得するために基礎から応用、発展へと段階的に高い専門性を身に付けることができる配置とします。そして、その集大成として卒業研究、卒業論文等をまとめます。 6. 1年次からキャリア教育科目を開講し、4年間を通じてキャリア教育を実施します。 7. 主体的な学修を進めるために、授業科目ごとに身に付く能力を明確にし、学修の段階や順序、レベルを確認できる体系的な科目配置を行います。

<p>入学者の受入れに関する方針 (公表方法：https://www.sugiyama-u.ac.jp/univ/about/policy/)</p>
<p>(概要) 椋山女学園大学は、本学の教育理念「人間になろう」の下、次のような目標と能力を持ち、大学で得た知性と教養を活かし、「人を大切にし、人と支えあい、自らががんばれる人」となるための教育を目指します。このような教育方針に共感する人であって、次のような意欲・能力を持った人を受け入れます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 大学での学びを通じ、目的や目標を持てる人 学びたい専門分野・領域、研究テーマがある人、将来社会に出てやりたいことや仕事がある人、取り組んでみたい課外活動や社会活動・ボランティア活動がある人 2. 大学で学ぶための基礎学力を有する人 学習の基盤となる国語、数学、外国語及び各学部学科が必要とする教科について一定基準以上の基礎学力（知識・理解）を有する人 3. 自分の能力を高めたい人 自ら考え（思考力）、決定し（判断力）、それを伝える（表現力・コミュニケーション力）能力を高め、自己を成長させることができる人 4. 主体性を持って多様な人と協同して学べる人 <p>授業以外にも、生徒会活動、課外活動（スポーツ、文化など）及び社会活動（ボランティア、地域交流、国際交流など）に積極的に参加してきた人で、その経験を大学での学びに生かせる人</p>
<p>学部等名 生活科学部</p>
<p>教育研究上の目的 (公表方法：https://www.sugiyama-u.ac.jp/univ/about/feature/purpose-u/)</p>
<p>(概要) <椋山女学園大学の目的に関する規程より> 第2条 生活科学部は、人間生活について、自然、社会及び人文の諸科学を基礎として実践的に考究する総合科学の構築を目指し、人間生活の基本となる衣・食・住に関する専門の学術を総合的かつ科学的に教授研究し、時代の変化及び社会の要請に対応する生活科学の知識を創造することができる人材を養成する。</p>
<p>卒業の認定に関する方針 (公表方法：https://www.sugiyama-u.ac.jp/univ/academics/ls/policy/)</p>
<p>(概要) 生活科学部は、日常の生活に欠かせない生活の科学、すなわち、衣・食・住に関わる知識と技術を修得し、当該分野における卒業研究を成し遂げた人に学位を授与します。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：https://www.sugiyama-u.ac.jp/univ/academics/ls/policy/)</p>
<p>(概要) 生活科学部は、実験・実習を重視した実学としてのカリキュラム編成・実施を基本方針としています。4年次には、総仕上げとしての卒業研究を全員が遂行できるよう、充実した指導を行います。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針 (公表方法：https://www.sugiyama-u.ac.jp/univ/academics/ls/policy/)</p>
<p>(概要) 生活科学部では、生活の中の身近な科学、すなわち、衣・食・住のいずれかに携わる職業人を輩出するという明確な方針に基づき、その教育目標を十分に理解し、それに相応しい基礎力を有する人を受け入れます。</p>

<p>学部等名 国際コミュニケーション学部</p>
<p>教育研究上の目的 (公表方法：https://www.sugiyama-u.ac.jp/univ/about/feature/purpose-u/)</p>
<p>概要) <椋山女学園大学の目的に関する規程より> 第3条 国際コミュニケーション学部は、言語及び文化に関する専門の学術を教授研究し、異文化を学びつつ日本文化の理解を深めることによって、文化創造及び文化発信の能力並びにコミュニケーション能力を備えた、国際社会において言語・文化の専門家として活躍することができる人材を養成する。</p>
<p>卒業の認定に関する方針 (公表方法：https://www.sugiyama-u.ac.jp/univ/academics/scs/policy/)</p>
<p>(概要) 国際コミュニケーション学部は、高い言語リテラシーと国際教養を身に付け、国際社会で活躍できる実践的な「コミュニケーション能力」を持った人材を育成することを教育目標とし、次の能力を身に付けた人に学位を授与します。 1. 自国並びに諸外国の言語と文化に関する確かな知識を修得し、それらを深く多面的に理解する能力 2. グローバルな視座に立って自国の文化と社会について考察し、課題を見出す能力 3. 外国語及び日本語の高度な技能に基づいた自己表現力とコミュニケーション能力 4. 高い言語能力と国際教養を活かし、国際社会において積極的・主体的に貢献し活躍する能力</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：https://www.sugiyama-u.ac.jp/univ/academics/scs/policy/)</p>
<p>(概要) 国際コミュニケーション学部は、外国語及び日本語の知識と技能を高め、自国及び諸外国の社会と文化に対する理解と洞察を深め、学びを活かした主体的な実践力を育成するカリキュラムを編成します。 1. 両学科で共通に開かれている「専門共通科目」とそれぞれの学科で開かれている「学科専門科目」がありますが、「学科専門科目」についても両学科の学生が履修できるシステムとします。 2. 「学科専門科目」は、両学科とも、4つの科目群に分け、学生の履修科目選択の自主性を重視するかたちで編成します。 3. 外国語及び国際教養の学修の一環として海外留学をカリキュラムに位置づけ、多様な留学プログラムを提供します。 4. 「卒業論文準備科目」を3年次と4年次に履修させ、卒業論文のテーマに関連した知識、研究方法、論理的思考力等を育成するように、丁寧な個別指導を行います。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針 (公表方法：https://www.sugiyama-u.ac.jp/univ/academics/scs/policy/)</p>
<p>(概要) 国際コミュニケーション学部では、「ことば」に対する基本的関心を前提として、言語及び文学や芸術などのさまざまな文化に関心があり、コミュニケーション能力を高めたいと考える次のような人を受け入れます。 1. 一定の基礎学力があり、将来への明確な目的を持つ人 2. 「ことば」を中心としたコミュニケーション能力の向上に関心を持つ人 3. グローバルな社会における「ことば」と文化を深く理解し、論理的思考、問題発見・解決能力、自己表現力の向上に関心を持つ人</p>

学部等名 外国語学部
<p>教育研究上の目的 (公表方法：https://www.sugiyama-u.ac.jp/univ/about/feature/purpose-u/)</p>
<p>(概要) < 相山女学園大学の目的に関する規程より > 第3条 外国語学部は、外国語と人文学に関する専門の学術を教授研究し、複数の外国語習得による複眼的視点を身につけ、専門とする言語圏並びにグローバル社会について深く多面的に理解し、地球規模の課題に取り組む能力を備えた人材を養成する。</p>
<p>卒業の認定に関する方針 (公表方法：https://www.sugiyama-u.ac.jp/univ/about/policy/english.html)</p>
<p>(概要) 外国語学部は、外国語と人文学の教育研究を基礎に、人類社会の豊かな多元性と深い歴史性を洞察し、優れた対話力と高い倫理観によって国際社会と地域社会に貢献できる地球市民を育成することを目的とします。本学部は次のような能力を身に付けた人に学位を授与します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 複数の外国語を用いて、各地域とグローバル社会の多元性と歴史性を理解できる力 2. 知的な創造力をもって地球規模の課題を発見し、解決のために思考・判断できる力 3. 異なる文化や価値観を尊重しながら他者と協働し、問題解決と価値創造に取り組むことができる力 4. 外国語の実践的運用能力により、他者と対話する優れた発信力
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：https://www.sugiyama-u.ac.jp/univ/about/policy/english.html)</p>
<p>(概要) 外国語学部は、優れた対話力と高い倫理観によって国際社会と地域社会へ貢献できる地球市民の育成を学位授与の方針とし、この目的を学修の中で実質化するカリキュラムを編成します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学部共通基礎として、日本という枠組を相対化する地球規模での考え方を学び課題を発見する「学部基幹科目」、他者と対話し国際社会の問題を理解するための基礎を学び複言語的視座を獲得する「言語リテラシー科目」、対話と実践を重視する演習科目として「言語アカデミック実践演習科目」を設置します。 2. 学部共通専門として、グローバルな理念（倫理）・歴史・課題を学び各地域と地球社会の多元性を洞察する3つの専門科目群、言語リテラシー科目で身につけた言語運用能力を実践し多面的な国際社会において思考力や判断力を育成する「海外文化研修プログラム」を設置します。 3. 学部共通専門の「国際キャリア科目」として、将来の進路を見据えて外国語の学びと仕事に必要な実務遂行能力とを関連づける「国際キャリアデザイン」、他者と協働し、自発的な課題発見と課題解決の方法を実践的に学ぶ「社会関与プロジェクト」を設置します。
<p>入学者の受入れに関する方針 (公表方法：https://www.sugiyama-u.ac.jp/univ/about/policy/english.html)</p>
<p>(概要) 外国語学部は、地球市民であること（グローバル・シチズンシップ）を前提に人間の歴史をグローバルにとらえ、複数の言語（日本語を含む3言語）と複眼的視座によって、環境破壊、人権問題、宗教対立、紛争、高齢化、ジェンダーギャップなど、地球規模の課題について、優れた対話力と高い倫理観によって国際社会と地域社会へ貢献できる人間の育成を目的としています。したがって本学部では以上の目的を共有する学習意欲のある人を受け入れます。</p>

学部等名 人間関係学部
<p>教育研究上の目的 (公表方法：https://www.sugiyama-u.ac.jp/univ/about/feature/purpose-u/)</p>
<p>(概要) < 椋山女学園大学の目的に関する規程より > 第4条 人間関係学部は、人間及び人間関係に関する専門の学術を学際的かつ統合的に教授研究し、人間の多様性及び心理について、広範な知識、総合的な判断力及び深い洞察力を有し、人間と人間関係上の諸問題を解明・解決することができる高度な人間関係力を備えた人材を養成する。</p>
<p>卒業の認定に関する方針 (公表方法：https://www.sugiyama-u.ac.jp/univ/academics/hs/policy/)</p>
<p>(概要) 人間関係学部は、人間の多様性及び心理について、広範な知識、総合的な判断力及び深い洞察力を有し、人間と人間関係上の諸問題を解決することができる人に学位を授与します。 卒業者が身に付けるべき学士力の具体的な内容は次のとおりです。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 人間の多様性及び心理に関する幅広くかつ深い知識と理解 2. 人と関わり、他者を理解する力、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力 3. 人間と人間関係上の諸問題を発見し、解決する態度 4. 総合的、学際的な視点と知識を身に付け、人間関係上の様々な問題を分析する能力と技能を持ち、これまで獲得した知識・技能・態度等を活用して、今後の社会において、創造力、批判的思考力、実践力をもって人と関わって生きていく力
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：https://www.sugiyama-u.ac.jp/univ/academics/hs/policy/)</p>
<p>(概要) 人間関係学部は、本学部の教育目標を実現するために、次のことを意図してカリキュラムを編成します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 全学共通科目として「人間論」、学部共通科目として「人間関係論A」「人間関係論B」を必修とし、教養教育科目と専門教育科目をバランス良く配置します。 2. 人間の多様性及び心理に関わる学問領域を学際的かつ総合的に探究できるように、幅広い分野の科目を開設し、学生の興味・関心・志向に応じて自由に科目を選択することを可能にします。 3. 多様な関心をもった学生が各々の関心にあわせてテーマを探究できるように、学部として7つのモジュールを設けます。 4. 1年次の「ファーストイヤーゼミ」、2年次の「基礎演習」や「心理学実験」、3、4年次の「ケースメソッド」「演習」、あるいは各種の実習といった少人数の参加型授業を数多く配置し、対話と実践を通して学習意欲を高めます。
<p>入学者の受入れに関する方針 (公表方法：https://www.sugiyama-u.ac.jp/univ/academics/hs/policy/)</p>
<p>(概要) 人間関係学部は、人間の多様性及び心理に関する専門の学術を学際的かつ総合的に教授研究します。本学部は、広範な知識、総合的な判断力及び深い洞察力を有し、人間と人間関係及び心理に関する諸問題を解明・解決することができる高度な人間関係力を備えた人材を養成します。 本学部では以上の目的を共有する強い学習意欲のある人を受け入れます。</p>

学部等名 文化情報学部
<p>教育研究上の目的 (公表方法：https://www.sugiyama-u.ac.jp/univ/about/feature/purpose-u/)</p>
<p>概要) < 椋山女学園大学の目的に関する規程より > 第5条 文化情報学部は、人文・社会科学の領域を中心として、文化及び情報に関する専門の学術を教授研究し、国際化が進む現代の情報社会に積極的に適応する能力とともに問題を解決することができる能力を備えた人材を養成する。</p>
<p>卒業の認定に関する方針 (公表方法：https://www.sugiyama-u.ac.jp/univ/academics/ci/policy/)</p>
<p>(概要) 文化情報学部は、人文・社会科学の領域を中心として、文化及び情報に関する専門の学術を修得し、情報化と国際化の時代に対応できる人材を養成することを目的としており、次のような学士力を有する人に学位を授与します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 文化や社会、人間への関心、情報とメディアについての広く学際的な知識 2. 自国の文化を理解するとともに異文化を理解し、的確にコミュニケーションできる力 3. 多様な文化が共生する社会における現代的課題を論じ、適切な判断と対応ができる力 4. 情報化と国際化が進む中で、それを踏まえて自らの課題解決に積極的に取り組むことができる力 5. 高度情報化社会の進展に貢献できる人材に必要な情報を、的確に分析・活用し、発信することができる力 6. 21世紀を生きる人間としてふさわしい豊かな人間性
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：https://www.sugiyama-u.ac.jp/univ/academics/ci/policy/)</p>
<p>(概要) 文化情報学部は、本学の教育理念「人間になろう」及び「椋山女学園大学の目的」「文化情報学部の目的」を実現するために、「学位授与の方針」に基づいて組織的、体系的にカリキュラムを編成します。全学共通科目、教養教育科目、専門教育科目を配置し、教養教育科目と専門教育科目の連携及び適切なバランスに配慮します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教養教育科目は全学と共通の枠組みのもと、人文、社会、自然、言語や情報、健康・スポーツに関する科目をバランスよく配置し、幅の広い教養を身に付けさせます。 2. 専門教育科目は「基礎教育科目」、「基幹科目」、「展開科目」、「関連科目」、「卒業研究」に分け、専門教育の基礎的な内容から、より発展した内容までバランスよく配置します。専門教育では、「文化情報学科」及び「メディア情報学科」の2学科に沿って系統的に修得できる科目を配置します。 3. 「基礎教育科目」には、社会人として必要な技能と日本語能力の修得を目指す「日本語・ソシオスキルズ」科目群、情報活用能力を育成する「情報リテラシー」に関する科目群、国際化の時代に役立つ「外国語」に関する科目群を配し、情報化と国際化の時代に対応できる基礎的能力の育成を図ります。 4. 「基幹科目」は、両学科の基幹をなすものであり、学科に分けて科目を配置し、両学科の基幹となる知識の修得を目指します。 5. 「展開科目」には、両学科に関する内容をより発展させた科目を配置し、より広く、深い専門的知識の修得を目指します。 6. 「関連科目」には、他学科の専門科目であるが、それぞれの学科がより深い知識と教養を身に付けるために必要な科目を配置し、より幅広い専門と教養の修得を目指します。

<p>入学者の受入れに関する方針 (公表方法：https://www.sugiyama-u.ac.jp/univ/academics/ci/policy/)</p>
<p>(概要)</p> <p>文化情報学部では、本学の教育理念「人間になろう」についての深い関心のもと、大学教育を受けるための基礎学力を有し、高度に進展しつつある情報化と国際化の社会状況の中で、文化に関心を持ち、社会の発展に貢献しようという意欲のある人を受け入れます。具体的には、次のような人を求めます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 人間や社会、文化に関わる様々な事柄に対して関心を持ち、広く学際的な知識を修得したいと考える人 2. 人間や社会、文化に関わる事柄を論理的、科学的に分析・考察し、自分の意見を持ち、表現する能力を修得したいと考える人 3. 自国の文化と異文化への理解に関心を持ち、異文化とのコミュニケーションをはかれる教養と能力を修得したいと考える人 4. 外国語の能力や情報関連の知識と技能を活用して社会で活かしたいと考える人 5. 社会人としてふさわしい知識と教養を持ち、21世紀に生きる人間として必要な基礎的能力、対人関係能力を修得したいと考える人 6. 大学教育を受けるための基礎的な学力を有している人

<p>学部等名 情報社会学部</p>
<p>教育研究上の目的 (公表方法：https://www.sugiyama-u.ac.jp/univ/about/feature/purpose-u/)</p>
<p>(概要)</p> <p>< 椋山女学園大学の目的に関する規程より ></p> <p>第5条 情報社会学部は、日々発展する情報技術の利活用に関する専門の学術及び利活用を通じた現代社会のしくみや課題の理解に関する専門の学術を教授研究し、文理の境界を越えた知識や技能を、現代社会の課題解決のために利活用できる知識と能力を有する人材を養成する。</p>
<p>卒業の認定に関する方針 (公表方法：https://www.sugiyama-u.ac.jp/univ/academics/ci/policy/)</p>
<p>(概要)</p> <p>情報社会学部は、日々発展する情報技術の利活用に関する専門の学術及び利活用を通じた現代社会のしくみや課題の理解につながる専門の学術を教授研究し、文理の境界を越えた知識や技能を用いることにより、グローバル化が加速化し、多様な課題が山積する現代の情報社会における新しい価値やデザインの創造及び社会的課題の解決に結びつける能力を有する人材の養成を目的としており、次のような学士力を有する人に学位を授与します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 現代の情報技術の利活用と現代社会のしくみや課題に関する知識、人々が暮らしやすい情報システムの構築に必要な知識 2. 現代の情報技術と現代社会の課題解決に応用可能なデータや情報の利活用に関する技能、課題解決に必要な情報をデザインできる技能 3. グローバル化が加速する現代社会の多様な課題を認識し、それらの評価ができる客観的な判断力、現代社会に流通するデータや情報の利活用に関する適切な判断力 4. 多様な文化が共生する持続可能な社会の実現に寄与する構想力、その意図と内容を正しく他者に伝えることができる表現力 5. 情報技術の発展が社会に与える影響や現代社会の課題に対する強い関心、地域社会の具体的課題に取り組もうとする主体性 6. 持続可能な社会の実現のために、種々の意見を受容しながら、多方面の知識・技能を活用する多様性と協働性

<p>教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：https://www.sugiyama-u.ac.jp/univ/academics/ci/policy/)</p> <p>(概要) 情報社会学部では、現代の情報社会に求められる情報に関する知識と技術を身につけ、現代社会で生じる様々な問題の理解とその解決に必要な情報分析や情報発信の能力を育成し、新たな価値の創出や社会に貢献することができる人材を養成するためのカリキュラムを編成します。</p> <p>1. 理論と方法論を一体的に学修できるよう、学びの基礎となる両学科共通の基礎教育科目、学びの各領域で中軸的な内容を扱う基幹科目、発展的な内容を扱う展開科目を設定します。</p> <p>2. 基礎教育科目では、職業選択や卒業後の働き方・生き方について考え、就職活動やビジネスの現場で求められる実践的な各種のスキル（ライティング、プレゼンテーション、コミュニケーション、マネジメント）を学ぶキャリア形成に関する科目、情報を適切に判断し、発信するための知識と技術を学ぶ情報リテラシーに関する科目、さらに、ビジネスや国内外でのコミュニケーションほか多様な状況で求められる実践的な英語能力を高めるために、各種技能向上を目指す英語の科目を配置します。</p> <p>3. 基幹科目では、現代社会の現状と課題を理解し、情報技術の利活用方法を修得する科目を配置します。</p> <p>4. 展開科目では、基幹科目での学修をさらに発展させた専門性のより高い科目を配置します。</p> <p>入学者の受入れに関する方針 (公表方法：https://www.sugiyama-u.ac.jp/univ/academics/ci/policy/)</p> <p>(概要) 情報社会学部では、大学教育を受けるための基礎学力を有し、情報技術を通して、現代社会の課題解決と発展に貢献しようとする意欲を持つ、次のような人を受け入れます。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針 (公表方法：https://www.sugiyama-u.ac.jp/univ/about/policy/society.html)</p> <p>(概要) 情報社会学部では、大学教育を受けるための基礎学力を有し、情報技術を通して、現代社会の課題解決と発展に貢献しようとする意欲を持つ、次のような人を受け入れます。</p>

<p>学部等名 現代マネジメント学部</p>
<p>教育研究上の目的 (公表方法：https://www.sugiyama-u.ac.jp/univ/about/feature/purpose-u/)</p> <p>(概要) < 椋山女学園大学の目的に関する規程より > 第6条 現代マネジメント学部は、地域、公共機関、企業及び国際社会における諸活動、諸問題等に係る広義のマネジメントに関する社会諸科学の専門の学術を学際的かつ総合的に教授研究し、創造的な問題発見・問題解決能力及び行動力、組織における指導力並びに国際的視野で問題を把握する能力を兼ね備えた人材を養成する。</p>

<p>卒業の認定に関する方針 (公表方法：https://www.sugiyama-u.ac.jp/univ/academics/mgt/policy/)</p>
<p>(概要) 現代マネジメント学部は、次のような幅広いマネジメント能力を備えた人に学位を授与します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 経営分野を中心とした社会科学の知識及びジェンダー、生活、言語、情報、人間理解、国際理解に関する幅広い知識を修得し、現代社会が抱える諸問題を理解できる力 2. 現代社会の諸現象に対し、主体的に問題を発見し解決するための思考と判断ができる力 3. 豊かな感性を有し、現代社会の諸問題に対して、積極的に挑戦する姿勢で、多角的かつ柔軟に対応できる力 4. 集団及び組織を適切にマネジメントするスキルを有し、地域とグローバルな視点で社会現象を分析し、自分の考えを表現できる力
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：https://www.sugiyama-u.ac.jp/univ/academics/mgt/policy/)</p>
<p>(概要) 現代マネジメント学部は、本学教育理念の「人間になろう」をマネジメント学修のなかで実質化するカリキュラムを編成し、次のような方針のもとに、全学共通科目である「人間論」を中心にカリキュラムの編成を行います。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教養教育科目群では、語学、情報、芸術、哲学、歴史、社会などの科目を学ぶことにより、人格の育成と論理的思考力の涵養を図ります。 2. 専門教育科目群では、経営・会計、総合政策、キャリアの3つの領域から社会科学の基礎知識と実践的なスキルを有機的に関連させ、現代社会の諸問題に総合的に対応できる能力を養います。 3. 経営・会計領域では、経営及び会計関連科目を通して企業分野を中心に、総合政策領域では、経済、法律及び政治関連科目を通して地域や国際分野を中心に、マネジメントに関する諸理論の修得を目指します。また、キャリア領域では、実学関連科目を通して資格やスキルに関する実践的能力の向上を図ります。 4. マネジメントの学修には、各授業科目のなかで学んだ基礎理論とそれを応用実践し検証する能力の修得や開発が必要であり、最終的には生きた知識に立脚して、組織の経営方針や政策を提言できる能力を養うことを目指します。具体的には、構想の企画・立案、実行に伴う問題の検討を通じて、マネジメントの理論的基礎と政策的応用を効果的に融合させ、設定された目標を達成することを目的とします。
<p>入学者の受入れに関する方針 (公表方法：https://www.sugiyama-u.ac.jp/univ/academics/mgt/policy/)</p>
<p>(概要) 現代マネジメント学部では、現代社会における様々な事象に関心を持ち、社会科学（経営・経済・法律・政治）に関する専門知識を修得し、将来、「企業」「地域・公共」「国際」のいずれかの分野においてマネジメント能力を活用できるような職業に就きたいと考えている人を受け入れます。</p> <p>本学部が考えるマネジメント力とは、企業の経営に限ったものではなく、社会生活において発生する問題を解決する能力をいいます。そのため高校時代に、社会科学に関する科目（「地理」「世界史」「日本史」「現代社会」「倫理」「政治・経済」）はもちろんのこと、コミュニケーションをとるための「国語」「外国語（英語）」、情報を分析するための「数学」などをしっかりと学習していることが望まれます。</p>

学部等名 教育学部
<p>教育研究上の目的 (公表方法：https://www.sugiyama-u.ac.jp/univ/about/feature/purpose-u/)</p>
<p>(概要) < 椋山女学園大学の目的に関する規程より > 第7条 教育学部は、高い知性及び道徳性を備えた心身共に健全な人間の育成を目指し、乳児・幼児・児童・生徒を含む子どもの全面的発達を意図した人間形成としての教育及び保育に関する専門の学芸を教授研究し、教育者として求められる専門的能力と豊かな人間性を兼ね備えた人材を養成する。</p>
<p>卒業の認定に関する方針 (公表方法：https://www.sugiyama-u.ac.jp/univ/academics/edu/policy/)</p>
<p>(概要) 教育学部は、卒業とともに教員・保育者として社会に貢献でき、また、生涯にわたって学び、成長し続けられる人に学位を授与します。卒業生に求められる学士力の具体的な内容は次のとおりです。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教育・保育全般に関する基礎的知識と、志す分野の専門的知識 2. 豊かな人間性と学問的教養を有し、教育・保育をめぐるさまざまな現代的課題を見出し、適切な対応を探求し、行動することができる力 3. 教職・保育職に対する使命感や責任感を持ち、愛情をもって幼児・児童・生徒に接することができるとともに、多様な人々と良好な社会的関係を築くことができる力 4. 優れた表現力と創造性を有し、子どもの発達に応じた授業・保育の構成、教材・教具の工夫ができ、個に応じた指導・援助ができる力
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：https://www.sugiyama-u.ac.jp/univ/academics/edu/policy/)</p>
<p>(概要) 教育学部は、教育学部のディプロマ・ポリシーを実現するために、次の方針に従ってカリキュラムを構成します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 優れた保育士・幼稚園教諭・小学校教諭・中学校教諭・高等学校教諭・特別支援学校教諭を養成するため、教育・保育全般に関する基礎的知識と、志す分野の専門的知識を系統的に学べるようにします。 2. (1) 保育・初等教育専修は「乳幼児保育プログラム」「幼児教育プログラム」「初等教育プログラム」「特別支援教育プログラム」を有し、保育士資格・幼稚園教諭一種免許状、小学校教諭一種免許状、特別支援学校教諭一種免許状を取得できるようにします。 (2) 初等中等教育専修は「初等教育プログラム」「数学教育プログラム」「音楽教育プログラム」「幼児教育プログラム」「特別支援教育プログラム」を有し、小学校教諭一種免許状、中学校教諭一種免許状(数学・音楽)、高等学校教諭一種免許状(数学・音楽)、幼稚園教諭一種免許状、特別支援学校教諭一種免許状を取得できるようにします。 3. 知識と理論の深い理解と、実践力を兼ね備えた人材を育てるため、理論と実践のバランスよいカリキュラムを準備します。特に教育や保育の場におけるボランティアや実習、教員や保育者との交流の機会を多く設けることにより、理論を実践に活かし、また、実践から理論へのより深い理解を生むような学びを準備します。 4. 現代社会が直面する情報化・国際化・持続可能な社会の実現などの課題に適切に対応でき、課題発見・問題解決能力を有し、生涯にわたって学び続け、主体的に生きる力を身に付けられるような科目を配置します。

<p>入学者の受入れに関する方針 (公表方法：https://www.sugiyama-u.ac.jp/univ/academics/edu/policy/)</p>
<p>(概要) 教育学部は、教員・保育者として社会に貢献でき、また、生涯にわたって学び、成長し続けられる人材を育てることを目的としています。本学部ではこの目的を理解する、次のような人を受け入れます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもや教育に関心を持ち、教員・保育者を志す人 2. 本学教育学部での学びの基礎となる、高等学校までの学習内容を修得している人 3. 数学の教員免許状（中学校・高等学校）の取得を希望する者は、「数学Ⅱ・数学B」の内容の習得、できれば「数学Ⅲ」の履修 4. 音楽の教員免許状（中学校・高等学校）の取得を希望する者は、楽典の基礎及びピアノの基礎技能の修得

<p>学部等名 看護学部</p>
<p>教育研究上の目的 (公表方法：https://www.sugiyama-u.ac.jp/univ/about/feature/purpose-u/)</p>
<p>(概要) < 嵯山女学園大学の目的に関する規程より > 第8条 看護学部は、生命の尊厳及び人間に対する総合的な理解に基づき、看護に関する専門の学術を教授研究し、人々の健康な生活に貢献することができる人材を養成する。</p>
<p>卒業の認定に関する方針 (公表方法：https://www.sugiyama-u.ac.jp/univ/academics/nurs/policy/)</p>
<p>(概要) 看護学部では、ヒューマンイズムの精神を備え、確かな実践力を有する看護職者として、次の能力を身に付けた人に学位を授与します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 対象の生命と人権を尊重し、看護職者としての倫理観や責任感 2. 社会の動向を踏まえ、看護職者としての自己研鑽力 3. 人間、環境、健康、看護に関する専門的知識 4. 論理的、批判的、科学的に思考し、対象を全人的に理解できる能力 5. 援助的人間関係の上に、基本的な看護を実践する能力 6. チーム医療の一員として協働できる能力

<p>教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：https://www.sugiyama-u.ac.jp/univ/academics/nurs/policy/)</p> <p>(概要) 看護学部は、椋山女学園大学の教育理念「人間になろう」、「看護学部の目的」、「ディプロマ・ポリシー」等の具現化を期し、次のような方針に基づいてカリキュラムを編成・実施します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 豊かな人間性や、看護職者として求められる倫理観や責任感を育むため、全学共通の「人間論」から始まる教養教育科目を配置します。 2. 対象を全人的に理解し基本的な看護を実践する能力を育むため、人間、環境、健康について深く知識を修得する「専門基礎科目」、看護の専門知識と技術を学ぶ「専門科目」からなる専門教育科目を配置します。 3. 看護学を学ぶための動機づけとなるよう、初年次より臨地実習を含めた「専門科目」を配置します。 4. 「専門科目」では、看護の基盤となる科目から人間の発達段階や健康レベルに応じた看護を学ぶ科目へと段階的に学修を進めるとともに、理論から実践へと学ぶことができるよう各科目を配置します。 5. チーム医療の一員として協働できる能力やリーダーシップとメンバーシップを育むため、少人数制のグループ学習を導入します。 6. 生活、地域包括ケアをコアとし、“生活の理解”、“看護の対象の多様性”及び“多職種連携”を組み込んで講義・演習・実習を展開します。 7. 時代や社会の動向を踏まえた要請に応えうる看護職者として研鑽し続ける基本的能力や、論理的、批判的、科学的思考力を育むための科目を配置します。
<p>入学者の受入れに関する方針 (公表方法：https://www.sugiyama-u.ac.jp/univ/academics/nurs/policy/)</p> <p>(概要) 看護学部では、豊かな人間性と確かな実践力を有する看護職者を育成することを目指します。入学生には、人間に対する積極的な関心を持ち、地域社会に貢献したいという意欲のある人を求めます。</p> <p>看護職者は、多様な対象者の幅広いニーズに応え、適切な支援を行う専門職です。このためには、自己研鑽を続けることができること、さらには、周囲と協調し、チーム医療等の調整役としての高度なコミュニケーション能力を育むことが求められます。本学部入学生に求める基礎学力は、コミュニケーション能力の基本となる「国語」「英語」、そして、論理的思考力の育成及び医学的基礎を理解する「数学」「理科」です。</p>

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：<https://www.sugiyama-u.ac.jp/univ/about/disclosure/>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	1人	—					1人
生活科学部	—	13人	9人	5人	4人	10人	41人
国際コミュニケーション学部 外国語学部	—	13人	8人	4人	0人	0人	25人
人間関係学部	—	17人	8人	2人	2人	0人	29人
文化情報学部 情報社会学部	—	18人	8人	2人	0人	0人	28人
現代マネジメント学部	—	10人	11人	4人	0人	0人	25人
教育学部	—	18人	9人	4人	0人	0人	31人
看護学部	—	11人	12人	2人	6人	15人	46人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
0人		327人					327人
各教員の有する学位及び業績 （教員データベース等）		公表方法： https://success.sugiyama-u.ac.jp/teacher/					
c. FD（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							
<ul style="list-style-type: none"> ・学生による授業アンケート調査及び各授業へのリフレクション、専任教員の自己点検アンケートの実施 ・新任教員研修、FD研修会の実施 ・シラバスの改善のため、シラバスの組織的な確認・点検を実施 ・全学FD活動報告書作成 							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等（2024年度）								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
生活科学部	257人	263人	102.3%	1038人	1115人	107.4%	4人	5人
外国語学部	200人	98人	49.0%	200人	98人	49.0%	—	—
国際コミュニケーション学部	—	—	—	670人	498人	74.3%	20人	1人
人間関係学部	200人	128人	64.0%	846人	675人	79.8%	7人	4人
情報社会学部	220人	133人	60.5%	220人	133人	60.5%	—	—
文化情報学部	—	—	—	668人	600人	89.8%	4人	0人
現代マネジメント学部	190人	206人	108.4%	730人	785人	107.5%	—	—
教育学部	170人	171人	100.6%	692人	690人	99.7%	5人	0人
看護学部	110人	133人	120.9%	410人	461人	112.4%	—	—
合計	1347人	1132人	84.0%	5474人	5055人	92.3%	40人	10人

(備考)				
<ul style="list-style-type: none"> ・令和6年度から、国際コミュニケーション学部国際言語コミュニケーション学科及び表現文化学科を外国語学部英語英米学科及び国際教養学科に改組。 ・令和6年度から、人間関係学部人間関係学科を、同学部人間共生学科に改組。 ・令和6年度から、文化情報学部文化情報学科及びメディア情報学科を、情報社会学部情報デザイン学科及び現代社会学科に改組。 ・国際コミュニケーション学部、人間関係学部人間関係学科及び文化情報学部は、令和6年度から募集停止（2年次編入学生は令和7年度入学生まで、3年次編入生は令和8年度入学生まで募集）。 				

b. 卒業生数、進学者数、就職者数

学部等名	卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
生活科学部	252人 (100%)	4人 (1.6%)	242人 (96.0%)	6人 (2.4%)
国際コミュニケーション学部	224人 (100%)	2人 (0.9%)	207人 (92.4%)	15人 (6.7%)
人間関係学部	215人 (100%)	10人 (4.7%)	184人 (85.6%)	21人 (9.8%)
文化情報学部	248人 (100%)	2人 (0.8%)	231人 (93.2%)	15人 (6.1%)
現代マネジメント学部	203人 (100%)	3人 (1.5%)	195人 (96.1%)	5人 (2.5%)
教育学部	171人 (100%)	2人 (1.2%)	166人 (97.1%)	3人 (1.8%)
看護学部	97人 (100%)	3人 (3.1%)	94人 (96.9%)	0人 (0.0%)
合計	1410人 (100%)	26人 (1.8%)	1319人 (93.6%)	65人 (4.6%)

(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				
https://www.sugiyama-u.ac.jp/univ/career/data/index.html				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業又は修了する学生の割合、留年者数、中途退学者数 (任意記載事項)

学部等名	入学者数 (2020年度)	修業年限期間内 卒業・修了者数	留年者数	中途退学者数	その他
生活科学部	262人 (100%)	250人 (95.4%)	2人 (0.8%)	10人 (3.8%)	0人 (0%)
国際コミュニケーション学部	211人 (100%)	187人 (88.6%)	17人 (8.1%)	7人 (3.3%)	0人 (0%)
人間関係学部	225人 (100%)	198人 (88.0%)	15人 (6.7%)	12人 (5.3%)	0人 (0%)
文化情報学部	241人 (100%)	230人 (95.4%)	8人 (3.3%)	3人 (1.2%)	0人 (0%)
現代マネジメント学部	201人 (100%)	197人 (98.0%)	3人 (1.5%)	1人 (0.5%)	0人 (0%)
教育学部	175人 (100%)	166人 (94.9%)	5人 (2.9%)	4人 (2.3%)	0人 (0%)
看護学部	101人 (100%)	95人 (94.1%)	4人 (4.0%)	2人 (2.0%)	0人 (0%)
合計	1416人 (100%)	1323人 (93.4%)	54人 (3.8%)	39人 (2.8%)	0人 (0%)

(備考) 中途退学者数には、学内転学部・転学科者数を含む。

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

(概要)

- シラバスにおいて、基礎的な情報（授業科目名、担当教員、授業科目区分（教養教育科目、専門教育科目等）、単位数、授業区分（講義、演習等）、開講学科、学年、開講期、曜日時限）に加え、授業テーマ、授業の到達目標、授業内容、授業計画、授業の進め方、課題（試験やレポート等）に対するフィードバック、アクティブ・ラーニング、評価方法と成績基準、授業時間外学修（事前・事後学修等）、担当教員メッセージ（受講学生に望むこと）、履修上の注意、キーワード、教科書、参考書等を明記している。
- シラバスは、ホームページ及び大学ポータルサイト S*map で公表している。

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要)

<学修の成果に係る評価>

- 「相山女学園大学学則」第22条第1項において、「授業科目の単位修得の認定は、試験の成績に平素の学修状況を加味して行う」旨規定し、同条第2項から第4項までにおいて、試験の時期・実施方法、成績評価の概略について定めている。
- 「相山女学園大学試験及び成績評価に関する規準」において、試験の実施、単位認定・成績評価について定めている。
- 各授業科目のシラバスにおいて、評価方法及び成績基準を明記している。

<卒業又は修了の認定に当たっての基準>

- 「相山女学園大学学則」第26条において、卒業認定、学位授与について規定している。

学部名	学科名	卒業又は修了に必要な となる単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
生活科学部	管理栄養学科	126 単位	①・無	49 単位
	生活環境デザイン 学科	126 単位	①・無	49 単位
外国語学部	英語英米学科	126 単位	①・無	※1 44 単位
	国際教養学科	126 単位	①・無	※1 44 単位
国際コミュニケーション学部	国際言語コミュニ ケーション学科	126 単位	①・無	49 単位
	表現文化学科	126 単位	①・無	49 単位
人間関係学部	人間共生学科	126 単位	①・無	※2 48 単位
	人間関係学科	126 単位	①・無	48 単位
	心理学科	126 単位	①・無	※2 48 単位
情報社会学部	情報デザイン学科	126 単位	①・無	※3 48 単位
	現代社会学科	126 単位	①・無	※3 48 単位
文化情報学部	文化情報学部	126 単位	①・無	※4 48 単位
	メディア情報学科	126 単位	①・無	※4 44 単位
現代マネジメント学部	現代マネジメント 学科	126 単位	①・無	※5 44 単位
教育学部	子ども発達学科	126 単位	①・無	49 単位
看護学部	看護学科	126 単位	①・無	1 年次 49 単位 2～4 年次 48 単位

G P Aの活用状況（任意記載事項）	公表方法：履修の手引 https://www.sugiyama-u.ac.jp/univ/campus/study/course.html 1. 学生自身による成績の認識ならびに勉学に奮起するための動機付け 2. 履修科目の安易な届出と、途中放棄の防止 3. 奨学金授与等における判定 4. 進学及び就職活動等における推薦者の選抜基準 5. 履修指導・進路指導等（退学勧告を含む。）
学生の学修状況に係る参考情報 （任意記載事項）	公表方法：

- ※1 年間のGPAが3.3以上の学生に対しては、翌年次の履修登録単位数を4単位まで上限緩和する。
 ※2 2024年度以降入学生は、年間のGPAが3.2以上の学生に対しては、翌年次の履修登録単位数を4単位まで上限緩和する。
 ※3 年間のGPAが3.0以上の学生に対しては、翌年次の履修登録単位数を4単位まで上限緩和する。
 ※4 年間のGPAが3.0以上の学生に対しては、翌年次の履修登録単位数を8単位まで上限緩和する。
 ※5 2024年度以降入学生は、年間のGPAが3.2以上の学生に対しては、翌年次の履修登録単位数を8単位まで上限緩和する。

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考（任意記載事項）
生活科	管理栄養	735,000円	200,000円	402,000円	教育充実費 学部教学費
	生活環境デザイン	735,000円	200,000円	385,000円	教育充実費 学部教学費
外国語	英語英米	735,000円	200,000円	354,000円	教育充実費 学部教学費
	国際教養	735,000円	200,000円	354,000円	教育充実費 学部教学費
国際コミュニケーション	国際言語コミュニケーション	735,000円	200,000円	354,000円	教育充実費 学部教学費
	表現文化	735,000円	200,000円	354,000円	教育充実費 学部教学費
人間関係	人間共生	735,000円	200,000円	352,000円	教育充実費 学部教学費
	人間関係	735,000円	200,000円	352,000円	教育充実費 学部教学費
	心理	735,000円	200,000円	359,000円	教育充実費 学部教学費
情報社会	情報デザイン	735,000円	200,000円	357,000円	教育充実費 学部教学費
	現代社会	735,000円	200,000円	357,000円	教育充実費 学部教学費
文化情報	文化情報	735,000円	200,000円	357,000円	教育充実費 学部教学費
	メディア情報	735,000円	200,000円	357,000円	教育充実費 学部教学費
現代マネジメント	現代マネジメント	735,000円	200,000円	354,000円	教育充実費 学部教学費

教育	子ども発達	760,000円	200,000円	360,000円	教育充実費 学部教学費
看護	看護	1,200,000円	200,000円	500,000円	教育充実費

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
(概要)
<ol style="list-style-type: none"> 1. 学修・生活指導教員制度…本学の専任教員が学生の様々な悩みに対してアドバイスをしたり、交流を通して、キャンパスライフを充実したものにするための制度 2. オフィスアワー…授業や学業、学生生活や進路に関することについて、学生が教員と相談できる体制を整備 3. 学修要支援学生の支援…全学的な「学生支援のためのガイドライン」に基づき、各学部・学科において、授業の出席状況及び単位修得状況による指導の基準を作成し、学修要支援学生を早期に把握し、支援
b. 進路選択に係る支援に関する取組
(概要)
<ol style="list-style-type: none"> 1. キャリアカウンセラー有資格者や経験豊富な相談員による個別面談 2. 就職ガイダンスの実施 3. 面接対策としてのマナー講座やグループディスカッション・グループ面接講座の実施 4. 基礎学力向上のための筆記試験対策プログラムの実施 5. 内定者の話を直接聞く機会やOG交流会 6. 企業人事担当者による業界研究セミナーや企業説明会の実施
c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組
(概要)
<p><身体面に係る支援の概要></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 診断および事後措置（費用は大学負担・年に1回） 2. 医務室を設置し保健師を常駐しての応急処置、健康相談、各種測定、専門医の紹介 3. セルフメデュケーション等の自己管理への健康指導 4. 新入生に対し保健調査を実施し必要に応じて学生相談室へ紹介 5. 学校医の健康相談（月に2回） 6. 配慮願の提出 <p><メンタル面に係る支援の概要></p> <ol style="list-style-type: none"> 7. 教員と学生相談室との連携 8. 教職員はカウンセラーの助言を参考に対応 9. カウンセラーとの面談、対応（学生・保護者） 10. 配慮願の提出 11. 外部機関（医療、就労支援等）との連携

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とする。

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄（合計欄を含む。）について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「－」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード (13桁)	F123310106577
学校名 (〇〇大学 等)	椋山女学園大学
設置者名 (学校法人〇〇学園 等)	学校法人椋山女学園

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者 (家計急変による者を除く)		341人	334人	364人
内訳	第Ⅰ区分	200人	198人	
	第Ⅱ区分	93人	91人	
	第Ⅲ区分	48人	45人	
	第Ⅳ区分	0人	0人	
家計急変による支援対象者 (年間)				一人
合計 (年間)				372人
(備考)				

※ 本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分、第Ⅳ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号、第4号に掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等		
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	—	人	人
修得単位数が標準単位数の5割以下 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が標準時間数の5割以下)	—	人	人
出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況	0人	人	人
「警告」の区分に連続して該当	23人	人	人
計	23人	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遑って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。） 、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間	0人	前半期	人	後半期	人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	人
3月以上の停学	人
年間計	人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数の6割以下 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が標準時間数の6割以下)	0人	人	人
GPA等が下位4分の1	44人	人	人
出席率が8割以下その他学修意欲が低い状況	0人	人	人
計	44人	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。